

第5回 宇和島市立伊達博物館建替委員会 会議録

- 日 時 令和2年1月29日(水) 13:30～15:30
- 場 所 宇和島市役所7階 701会議室
- 出席者 [宇和島市立伊達博物館建替委員会委員(順不同、敬称略)]
岡原 文彰、金瀬 聡、山田 芳人、福島 朗伯、三曳 重郎、
伊達 宗信、二宮 信彦、廣瀬 孝子、木村 宗慎、本田 耕一、
日前 賢一郎、三好 めぐみ、永田 幸子、藤堂 真二、二宮 一之、
田中 広興
- 欠席者 玉田 光彦
[事務局]
教育部長
文化・スポーツ課長
伊達博物館(館長、係長、学芸員)
株式会社トータルメディア開発研究所
- 議 事 (1) 報告・説明事項
 - ①展示設備専門部会の答申について
 - ②サービス専門部会の答申について
 - ③文化庁協議の報告について
 - ④先進地視察(明治神宮ミュージアム)の報告について(2) 協議事項
 - ①今後のスケジュール見直しについて(3) その他

次 第

- 1 開会
- 2 議事
- 3 閉会

■会議の記録

1 開 会

(事務局による司会進行)

市長

(市長挨拶)

- ・伊達博物館建て替えについて、市民の皆様がどのような形になっていくのか大変心配している。丁寧な説明が必要である。
- ・今回はその前段として様々な議論・活発な意見を交わし、よりよい博物館建設のため、お力添えいただきたい。

2 議 事

(1) 報告・説明事項について

①展示設備専門部会の答申について

部会長

- ・第4回伊達博物館建て替え委員会において諮問された事項について検討した結果、次の通り意見を取りまとめたので答申する。

1. 展示に係る考察について

- ・現在の伊達博物館の最大の魅力は、宇和島伊達家伝来の本物の資料が見られることにある。展示テーマの拡大はあってしかるべきだが、「伊達」博物館として、アイデンティティを保ち続けるべきである。

(1) 展示テーマについて

- ・「地域の歴史文化の再生・共創の象徴となるべき博物館」を目指して、新市全体の歴史文化について展示構成を検討していく。
- ・次世代を担う子供たちに対して、郷土学習を進めやすい展示テーマのあり方も模索すべきである。

(2)展示手法 について	<ul style="list-style-type: none"> ・実物資料を中心として、映像・音声・模型及び参加体験型展示等の手法を取り入れ、分かりやすく親しみのある展示が望ましい。
2.設備に係る考 察について	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクションマッピング・古地図及び映像等の視覚で楽しめるものや、再現された部屋や乗り物等、入ったり乗ったり体験できる展示手法は、興味を持たせる切欠として大変効果的である。積極的に検討したい。
2.設備に係る考 察について	<ul style="list-style-type: none"> ・温湿度管理が行き届いた十分な広さの収蔵庫を整備するべきである。
(1)バックヤ ードについて	<ul style="list-style-type: none"> ・トラックヤードや荷解室についても、学芸員の意見を重点的に取り上げていただきたい。
(2)その他の 設備機能等につ いて	<ul style="list-style-type: none"> ・津波をはじめとする災害を受ける立地であることを十分に認識し、収蔵庫や電気系統設備の配置については慎重に検討されたい。 ・基本構想で「新しいまちづくりと景観の美しさの象徴となるべき博物館」を目指していることから、周辺を含めた景観にも十分配慮されたい。
3.答申に係る進 言について	<ul style="list-style-type: none"> ・初期費用と維持費用をしっかりと意識して計画されていきたい。 ・学芸員の専門性は様々であり、展示テーマに沿って適切な人員を採用し、養成していくことが必要である。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ただいまの答申について何か質問はないか。
A委員	<ul style="list-style-type: none"> ・観光交流センター部分も一緒に入ることだが、天赦公園内の建蔽率制限の1割2分はそれも含めた全部の建蔽率か。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・その通りである。
A委員	<ul style="list-style-type: none"> ・浸水する場所なら嵩上げが必要であり、公園とは違うと認識した方がよいのではないか。

- 事務局
- ・津波が来ることは想定されている。展示物や資料等の被害が最低限になるように、2階以上に収蔵庫を作る予定になっている。
 - ・区切りについては、公園と一体化の複合施設を目指している。
- B 委員
- ・天赦公園の中に計画を進める場合、塀を建てて完全に公園と博物館が区切られるような形は望ましくない。
- A 委員
- ・公園の敷地を嵩上げするのではないのか。
- 事務局
- ・そこまで詳しく意見は出ていないが、津波に耐え得るような施設にしたいという方向性である。
- A 委員
- ・樹木等を利用し、不自然でない形になればいい。
- 委員長
- ・具体的な意匠やデザインの方向性は、基本構想に照らし合わせて建築計画、実施計画、基本計画を行う段階で担保していただくことになろうかと思う。他に何かあるか。
- C 委員
- ・電柱の埋設は、災害に対してプラスなのかマイナスなのか。
- D 委員
- ・浸水しても漏電しない構造を考えた上で、配置・設計していくならば、問題ないと考える。
- E 委員
- ・大電源、大電流を使うならば、高圧受電設備の設置が必要である。
 - ・高電圧を扱うため、防水対策して建てた方がいいと進言した。設計の折には必ずやって欲しい。安全面を考えていただきたい。
 - ・天赦園、伊達博物館からの景観が問われるため、電柱の埋設工事をしてもらいたい。
- B 委員
- ・公園と博物館の一体化、全体の景観を守るという動きが、今後の宇和島市の景観整備のモデルになれば素晴らしい。
 - ・基本計画に入っていく時に、電源設備系の配置については十分に留意されたい。

F 委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 展示スペースの拡大について、予定はないか。 ・ 現在の展示場面積は 7 0 0 m²であり、ハイグレードな条件を求められる。試算した結果、学芸員の負担も増えてくることから、展示の広さは同等かプラスアルファくらいと考えている。
トータルメディア開発研究所（以下 TM）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公開承認施設ということで、かなりハイスペックな建物・施設を文化省からも要求されている。 ・ まずは収蔵庫をしっかりと確保する。その次に十分な展示室という形で優先順位をつけていきたい。 ・ 要求水準がかなり高いので、どこまで要求を満たせるかは今後の計画設計業務の中で詰めていきたいと考えている。
F 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伊達博物館は、たくさんの資料を入れ替えながら展示している。 ・ 地元であればいつでも行けるが、観光客にとっては少なく感じられるのではないか。 ・ 展示場を 1.5 倍から 2 倍程度拡大し、常設をたくさん作って欲しい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 展示施設も含めて面積の拡大が可能かどうか、今後の計画段階で議論を深める。
G 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電柱埋設は可能であるが、ケーブルテレビ等の線と電線を共有しているため、コストもかかる。電気室は上にしなければならないので、埋めたものを地上に出す部分等、他社との協議も必要になってくる。
TM	<ul style="list-style-type: none"> ・ 博物館は、非常時の停電に備えて、特に収蔵庫は 24 時間か 48 時間持つだけの発電機を持っているのが一般的と考えている。
E 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 津波が来た時に高圧受電設備が全滅すれば、発電装置によって 3 日間は持っても、その後は持たない。

委員長

- ・その議論は実施設計の段階に入った話であり、懸念は十分共有していると思う。事務局も施設設計に入った段階で留意するように伝えて欲しい。

②サービス専門部会の答申について

部会長

- ・サービス部会は今日までに2回開催させていただいた。学校関係、病院関係、障害福祉関係等に参加していただき、サービスとはどういうものか意見をいただいた。

1.サービスに至る考察について

- ・建物デザイン等、入りやすい、誰にでも親しまれる博物館にしていきたい。

(1)集客に至る工夫について

(2)アクセシビリティの向上について

- ・バリアフリーはもちろんのこと、触ることで楽しめる工夫など、障がい者の方でも行ってみたいと思えるようなサービスをしっかりやっていきたい。
- ・宇和島伊達家の歴史を、外国人向けに多言語で世界に発信していける技術が必要である。

(3)子供たちへの郷土学習の支援について

- ・天赦公園に伊達博物館が建つことで、近隣にある小中高校の学生たちが、どれだけ博物館に興味を持てるか議論した。
- ・見るだけでなく、分かりやすく楽しく体験できる、体験型の博物館にしていければ一番いい。

2.サービス部会の意見のまとめ

- ・病院関係の方たちが気軽に足を運び、宇和島の歴史を感じられる場所にできたらいい。
- ・歴史的価値のある資料の保存展示が博物館の本来の役割である。
- ・来館者数が期待されることを認識して、サービスの向上に努めていける博物館にしていく。

- | | |
|------|--|
| B 委員 | ・地域の学校との連携も含めて、開館時間についての検討は実務ベースで検討いただきたい。 |
| C 委員 | ・現在、月曜日が休館日であり、月曜日に来られる方は展示を見られない。 |
| B 委員 | ・無料スペース等の部分は、年中無休の運用が可能なのかという議論は今後必要になってくる。実務ベースで検討いただきたい。 |

③文化庁協議の報告について

- | | |
|----------------|--|
| 事務局 | ・県の担当者から助言をいただき、1月9日に事務局3名が文化庁へ事前協議の相談に向かった。文化庁調査官2名にご教授いただいた。 |
| 1.立地について | <ul style="list-style-type: none"> ・博物館の一番の機能は文化財を守ることである。 ・津波や台風被害が想定される場所に建てるならば、十分な対策を行うこと。 ・空調等の非常用電源のバックアップは、1週間持つものも検討すること。 |
| 2.天赦園の名勝指定について | <ul style="list-style-type: none"> ・名勝の指定は、天赦園からの景色も含めたものである。 ・博物館建設予定地が天赦園に近くなるため、文化庁文化財の名勝担当者にも相談すべきである。 |
| 3.運営について | ・直営か指定管理か、設計の段階で運営に係るユーザーの意見を調整しながら進めていくこと。 |
| 4.予算について | ・観光集客に気をとられて、本来の展示、収蔵庫の予算を削らないようにすること。 |
| 5.設計について | <ul style="list-style-type: none"> ・デザイン性を重視したランドマークとなる施設を目指しているのであれば、施工主側、博物館側の意見をしっかり聞いて、対応してくれる設計者がよい。 ・以上の助言をいただいた。 |

- B 委員
- ・現地の事情を汲んで、地域の需要に応えたものを造るということを理解していただけないと困る。
- 事務局
- ・公開承認仕様施設にするということは、文化庁の指導をしっかりと受けて、計画建設するということである。
 - ・基本計画には、展示収蔵庫に関して文化庁の指示に準ずるという言葉を入れ、基本設計・詳細設計の時にも文化庁に説明して詰めていく等、文化庁の指導を受けていくというのが結論である。
- B 委員
- ・文化財の保全、管理について留意して欲しいと強調されたと認識している。文化庁の方は引き続き協議を進める予定である。

④先進地視察（明治神宮ミュージアム）の報告について

- 委員長
- ・明治神宮ミュージアムは、新しい博物館としては大変好評を得ている施設である。規模も含めて伊達博物館とも方向性を考える上では合理的な一つの目標になるということで、事務局に視察に行っていた。
- 事務局
- ・延床3, 200㎡、展示スペース600㎡というところで、新しい伊達博物館のサイズと同程度である。
 - ・収蔵庫は1階と2階にあり、1階に比較的扱いやすい重要性が低いもの、2階に重要なものが置かれている。学芸員の話では、広い収蔵庫は使い勝手がいいとのこと。
 - ・荷解室も広く、トラックヤードは4 tトラックが十分入る大きさのものをきちんと計画して作られた。
 - ・神宮の森の桜等を座ってゆっくり体感できる3面モニターがあるコーナーがある。
 - ・展示について、2階は明治天皇の御愛用品、1階は明治神宮の季節ごとの宗教行事となっている。宝物殿のミニチュア、御幣の作り方の映像等の内容であった。

事務局

- ・ミュージアムコーナーは、控えめな商品の取り扱いである。
- ・木をベースとしたベンチがある場所が一番憩える場所で、明治神宮の森をゆっくり見てもらいたいという意味で大きくとってある。来館者が多くなれば、喫茶コーナーに変えられるよう裏に厨房スペースが設置されている。持続可能性を考えて、ベンチからスタートしている。
- ・サイズ感等、非常に参考にすべきところが多いと思う。

委員長

- ・バリアフリー等、設備には現代的なことを検討に入れて、神宮の歴史的な景観を阻害しない建物になっていたということである。
- ・庭園で建物を見る時は、屋根と庭との一体感が大事だということが日本建築の手法である。東京に行かれることがあれば、一つの例としてご覧いただければと思う。

(2) 協議事項

①今後のスケジュール見直しについて

事務局

- ・伊達博物館改築事業基本計画策定事業について、当初計画策定の時期を3月末として業務を進めてきた。しかし天赦公園の移転と絡めて計画案を検討した方が費用や工期の面からも有利であるという結論に至った。
- ・予定では5月下旬に基本計画の素案を皆様にメール・郵送等で送付し、6月中に意見を募り、7月上旬には意見を取りまとめ、7月中に委員会を開催できたらと思っている。次回の委員会開催は7月下旬から8月当初になろうかと思う。パブリックコメントを経て、9月には基本計画をまとめたい。

事務局

- ・建替事業の全体スケジュールについては、基本構想では令和6年中の完成を目指すということで進めていた。しかし天赦公園への移転方針決定後、今後のスケジュールや関係各所との調整、財政当局とのやり取りの中で、令和8年中の完成・オープンを目指すというのが現実であると判明した。

委員長

- ・天赦公園への移設について、公園や市民の憩いの場が失われるのではないかという声が多々出ているようなので、大方の理解を得るための議論を深める時間が必要だ。
- ・市民の懸念材料や心配は、委員会でも共有して議論を進めている。各委員会での議論を、市民に公にするタイミングも必要である。

(3) その他

E 委員

- ・伊達博物館を移転すれば、天赦公園は狭くなる。自然と一体化して天赦公園はそのままというのは、物理的にあり得ない。市民に対して説明する責任がある。
- ・理想を追求すると莫大な金額になる。バックヤードに重点を置き、マイナスではなくプラス要因で建設してもらいたい。
- ・コスト面を考慮し、デザイン等を工夫し、市民が満足いくものをつくってもらいたい。
- ・パブリックコメントの周知徹底をすべきである。
- ・学芸員の話聞きながらいいものを建ててもらいたい。

- | | |
|------|--|
| F 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・公園が狭くなることは事実である。面積等の具体的なイメージなら伝えやすくなるだろう。 ・デザインについて、著名な建築士の建物は集客力がある。提案内容を吟味し、慎重に検討することが重要だと思う。 ・パブリックコメントについては指摘の通りである。パブリックコメントの制度自体の問題ではある。次回の建替委員会では、具体的な絵はあるか。 |
| TM | <ul style="list-style-type: none"> ・次のステップに進めるための敷地の配置等を検討いただきたいと考えている。 |
| F 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・具体性がないと説明することも難しい。多くの方々に「これだったら」と思っただけの形にできたらと思う。パブリックコメントについても、しっかり取り組んでいきたい。 |
| G 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・改築工程表について、埋蔵文化財調査と地質調査が計画されているが、仮に調査等の結果、この場所に博物館が建てられないという想定はしていないのか。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ・していない。 |
| G 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・周辺工事によって偕楽園や天赦園の湧水が減少している。地質調査を前倒しにして行うことは出来ないか。 ・また、調査の結果、工期が遅れる可能性もある。現在の建築技術で建設可能なのか。不可能であった場合、振り出しに戻るのか。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ・地質調査のスケジュールは組めていない。地質調査に関しては、工程を見直す必要がある。液状化を含めて非常に軟弱な地盤であることは承知している。検討させていただきたい。 工期についてはスケジュール内で対応可能と考えている。 |

- D 委員
- ・ボーリング調査をした結果、深い地盤で軟弱であれば、工法によって工事費が上がるが建てられないことはない。
- F 委員
- ・コンセプトは変わらないので、与えられた場所の中で粛々と場所選定を行う。
- G 委員
- ・当初は現地建替の意見もあった。万が一、天赦公園内に建てられない場合、再度現地での建替は検討しないのか。
- F 委員
- ・調査した結果、現在の場所に建てざるを得ない場合、コンセプトを盛り込んで現行敷地の建て替えプランに変更することで問題ないと思う。
- F 委員
- ・コストや枯らし期間の営業の問題等、様々な問題がある。そもそも公園の中にある博物館を目指す理由が、本当の問題点になっていくことはあるかと思う。コストについて考えていかなければならないと思う。

3 閉 会

- 委員長
- ・いろいろな形で建築家がコンペされていたり様々な方法論は参考になるべきものだと思うが、委員会が三者総会になって議論を尽くしたり、こちらからの要望を言わない、意見を何も言わない委員会ではなくて、今後建築家や業者の間に対しても、どちらかというとなかなか難しく、タフな委員会として機能するように、それで入念な議論を尽くして、速やかにいろいろな形で市民に広げて理解を得られるような形で取り組んでいく。
 - ・本日の建替委員会はこれで閉会とさせていただきます。